



小城市立歴史資料館 * 中林梧竹記念館だより

文化財説明板を設置しました

市では「～小城どこでんミュージアム～屋根のない博物館構想」により順次、市内の文化財などを紹介する説明板の設置を行っています。

平成30年度は、須賀神社の山の麓にある大楠神社（柴田花守が楠木正成公像をまつた）、太田蔵人刃傷事件の地（小城郵便局北側）、祥光山星巖寺の小城鍋島家墓所の3カ所に、「さが維新交付金」を活用して設置しました。近くにお寄りの際はぜひご覧ください。

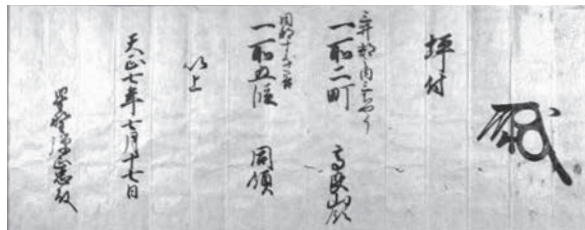


大楠神社にある高札型説明板▶

星野家文書を小城市重要文化財(古文書)に指定

星野家文書は、小城町西小路の旧小城藩士星野家に伝来したもので、平成18年に小城市へ寄贈されました。「御朱印」と書かれた木箱に納められています。

天正期（1573年～1593年）から明治初期にかけての文書史料の他に、小城三代藩主鍋島元武の左手の一部とされる布片、戊辰戦争時に小城藩兵であることを示した袖印など、木箱を含め総数130点を指定しました。



▲大友義統から受け取った書状（領地を与えるという内容）

星野氏は南北朝時代（1336年～1392年）に筑後地方（現八女市星野村・うきは市付近）で繁栄した豪族で、戦国時代には大友氏や島津氏に属し、そのうちの一支族は豊臣秀吉の九州征伐後に鍋島氏に仕えるようになりました。鍋島元茂を初代とする小城鍋島家が創設された時に、鍋島直茂より譲り受けた八十三士の一人として元茂の家臣となりました。当初は松崎姓を名乗りますが、のちに星野姓に戻り、江戸時代を通じて小城藩士星野家として存続します。

▼今月号から、小城の歴史について小城郷土史研究会の寄稿を掲載します。

おぎの歴史探検隊

小城隕石〈その1〉

小城郷土史研究会

イギリスの首都ロンドンにある大英自然史博物館には、「小城隕石」が大切に収蔵されています。この隕石が小城に落下したのは、江戸時代の寛保元年4月25日（1741年6月8日）。第5代小城藩主・鍋島直英の治世時代のことでした。

このときの小城藩の記録によれば、午前11時頃に清水辺りの空に急に黒雲が現れ、大太鼓を激しく打つような音が10ばかり聞こえたといえます。

空中でバラバラになった石が、轟音とともに藩領内に次々と落下したわけですから、ものすごい衝撃だったことでしょう。

騒ぎが静まった後、藩が回収した黒い石は全部で4個。そのうち大きなものが2つあり、1つは鷲原川



の東にある屋敷の庭で、もう1つは晴田村の田んぼの中で発見されました。

この2つの石は「七夕石」と命名され、小城藩の祈禱所だった福智院護摩堂（現在の桜岡小学校北側）に安置され、長く人々に拝まれていたそうです。（続）

▲国立科学博物館に展示された小城隕石

◆開館時間 9時～17時 ◆休館日 毎週月曜日・祝日 小城市ホームページから 梧竹・歴史資料館・文化財 検索
【問合せ・申込み】 歴史資料館 文化課（桜城館2階） 担当 下川・永田 ☎71・1132